

【開催日時・場所】

平成26年9月29日（月）午後5時00分～午後7時00分

仮庁舎3階大会議室

【出席者】

（委員）50音順

阿久津委員、飯島委員、稲垣委員、栢委員、佐々木委員、佐藤委員、清水委員、十文字委員、杉田委員、早山委員、藤本委員

（市）

早瀬こども部長、井澤こども部次長

（事務局）

竹田こども政策課長、小澤こども部主幹、安達こども政策課係長、西川こども政策課主査、石橋こども政策課主任主事、山下こども政策課主任主事、金木こども政策課主任主事、伊藤こども政策課主事

【傍聴人数】

0人

【次第】

1. 開会

2. 議題

（1）「習志野市子ども・子育て支援事業計画（素案）」について（協議）

3. その他

（1）「放課後子ども総合プラン」における市町村行動計画を「習志野市子ども・子育て支援事業計画」に記載することについて（報告）

（2）次回の会議日程及び議題等について

（3）その他

4. 閉会

【配付資料】

資料1 習志野市子ども・子育て支援事業計画（素案）

資料2 「放課後子ども総合プラン」概要

【1. 開会】

【2. 議題】

（1）「習志野市子ども・子育て支援事業計画（素案）」について（協議）

<事務局：竹田こども政策課長>

○事務局より、資料1に基づいて説明。

《質疑》

（第1章）

<稲垣会長>

計画書に出てくる数値については、出典を明示し記載していただきたい。

<栢委員>

【〔2〕計画策定の背景と趣旨】に記載されてある「自立」と、【第3章 〔2〕基本視点・基本目標】に記載されている「自律」は、どのように使い分けされているのか。

<事務局：竹田こども政策課長>

【〔2〕計画策定の背景と趣旨】に記載されてある「自立」は「習志野市次世代育成支援対策行動計画」における記載であり、「自立力」という表現をしている。昨年の子ども・子育て会議では、自ら立つという事だけでなく、律することも今後大事となるとの議論となったため、子ども・子育て支援事業計画では「自律力」の表現を使わせていただきたい。

(第2章)

<稲垣会長>

資料に出典が記載されているが、時点など正確に記載していただきたい。また、グラフに掲載されている年次が揃っていない。習志野市子育て支援に関するニーズ調査結果の概要にあるグラフには、回答者の割合は記載されているが、実人数が記載されていない。また、棒グラフの軸の最大値がグラフによって異なっている。各項目の中での数字の強弱はわかるが、項目間の比較がしにくい。グラフの表記の仕方について、正確にしていただきたい。

<佐々木委員>

【〔3〕習志野市子育て支援に関するニーズ調査結果の概要⑦】のグラフだが、子育て支援事業の認知度と利用状況が同じグラフに表されている。認知度と利用状況を分けたグラフも考えられると思うが、一緒にした理由を教えてください。

<事務局：竹田こども政策課長>

行政サービスにおいて、どの事業を充実させればよいのか表すために、マトリックス図に落とし込んだ。表の見やすさについて再度検討し、変更させていただきたい。

<稲垣会長>

佐々木委員の指摘は、認知度と利用状況という二つの項目が、なぜグラフの同じ横軸に来ているのかの指摘だと思う。子育て支援事業を認知していても利用するかしないかは別であり、グラフの作り方が誤っている。ニーズ調査の際に、認知度と利用状況を同じ設問で聞いているため、このようなグラフになったのではないかと。違うのであれば、このグラフを作成する前にクロス集計を行っていると思うため、それを示してからグラフを作成しなければならない。

<事務局：竹田こども政策課長>

指摘のとおり、認知度と利用状況が一緒になっていることは誤解を招くため、検討させていただきたい。

<杉田委員>

【〔3〕習志野市子育て支援に関するニーズ調査結果の概要】で、調査対象者は就学前児童の保護者となっているが、小学生低学年・高学年の放課後の過ごし方の設問も、同じく就学前児童の保護者に聞いているのか。

<事務局：竹田こども政策課長>

調査対象者のお子さんが小学生になった時の、将来的な過ごし方を伺っている。

<佐々木委員>

【[3]習志野市子育て支援に関するニーズ調査結果の概要】で、「他と比較して割合が高い項目は太字に下線」と記載されているグラフがあるが、比較対象は何か。

<事務局：竹田こども政策課長>

保育所、幼稚園、こども園を比較し、その中で割合が高い項目について下線を引かせていただいた。

<稲垣会長>

何%数字が違っていたら大きく違うと判断しているのか。項目によって差異がバラバラである。何をもちて割合が高い低いと判断しているのかわからない。記載するのであれば、何と何を比較して、何パーセントの違いがあり、課題があるなどわかりやすく表記していただきたい。

<藤本委員>

各施設の改善すべき点についての設問は、その施設に通っていない人にも聞いているのか。通っていない施設については、改善すべき点がわからないと思うがいかがか。

<事務局：竹田こども政策課長>

改善すべき点についても、就学前児童の全保護者に聞いている。各施設に通っていない人の希望を含めたものとなっている。

<藤本委員>

自分が通っていない施設について、どこまで施設について理解をして改善すべき点を回答しているのかが見えない。

<事務局：竹田こども政策課長>

例えば幼稚園に通っている方の中には、保育所に入れなかった方もいると予想され、線引きが困難であるため、全数の回答とした。クロス集計も含めて、内容の見直しを検討したい。

<稲垣会長>

施設に期待することであれば全員に聞いて差し支えないが、改善すべき点は施設に対する評価となる。藤本委員の指摘のように、通っていない人の意見は、伝聞であったり、場合によっては情報操作も可能になる。実態の調査をするのであれば、クロス集計をかけるなどしていただきたい。

子どもたちの要望を計画に反映させるのが大事なことになる。【[4]子どもの満足度調査結果の概要⑧習志野市にあったらよいと思う場所や施設】では、子どもは自由に遊べてたまり場となる場所を希望している。しかし、【[6]課題の整理】では、その点に触れられていない。また、【[4]子どもの満足度調査結果の概要⑥習志野市が今後力を入れるべきこと】は、安全・安心に加えて平和なまちという回答が多く、習志野市にはとてもいい子どもたちが育っていると思うが、課題にどう反映されているのかが見えない。未来の習志野市民である子どもたちの思いをどう活かすのか、課題の整理に明言されるとよい。

(第3章)

<稲垣会長>

【[1]基本理念】は、文章全体の推敲をお願いしたい。例えば、「不安の中から喜びを感じる子育て」との記載があるが、文章の表現として違和感がある。

<栢委員>

【〔2〕基本視点・基本目標 基本視点1】に「たくましさを感じさせる子ども」とあるが、具体的にどのような子どものことを指しているのか。

たくましさを感じる子どもが多数いるという部分は、スポーツができる子なのか、学習ができる子なのか、わかりづらい。

<事務局：竹田こども政策課長>

心身ともにたくましいことの意味だが、改めて丁寧な記載について検討したい。

<稲垣会長>

前段の「たくましい」の部分では、子どもがインターネット等の情報によって影響を受け、自己肯定感を持って生きていくのが難しいと読み取れ、難しい状況にある子どもたちが多いといている。しかし、後段になると、たくましく生きている子どもが多数いると言っている。どちらが多数派なのかわかりづらい。習志野市は負けないたくましさを育てていくのか、すでにもっているたくましさ強化していくのか、文章全体として意味がわからない。抽象度が高いのはよいが、たくましさの前提、具体性がわからないという御指摘かと思う。

<事務局：竹田こども政策課長>

「たくましい」という言葉は、様々な意味を想像させるため、丁寧な記載としたい。

<佐々木委員>

【〔2〕基本視点・基本目標 基本視点2】上段に、「男性の育児への参加を促進」とあるが、家庭で子育てをされている方の精神的負担が問題になるから男性の育児への参加を促進するというのは、違和感がある。文章を下段に入れた方がつながるのではないか。

<事務局：竹田こども政策課長>

修正させていただきたい。

<稲垣会長>

【〔2〕基本視点・基本目標 基本視点2】の「家庭における子育て機能が低下し」という表現は、子育て中の当事者からすると嫌な表現だと思う。子育てをされている家庭を主体に考えるのであれば、「不安が大きくなっている」などと記載する方が、趣旨に合った表現かと思う。低下しているという評価は、いかがかと思う。

(第5章)

<栢委員>

【(3-2) ③育児サークルの支援】に、NPO や市民団体への支援や協力も盛り込んでいただきたい。

<稲垣会長>

活動支援に対する意見と思う。「育児サークル」との事業名が限定した対象をイメージさせるため、NPO等の自由度の高い活動が除外されている感がある。包括的な事業であるならば、事業名を再考していただき、誤解のない事業名にしていただきたい。育児サークルの支援に限定的な面があるのであれば、実態に沿い、項目を増やすなどしていただきたい。

<佐々木委員>

第5章に記載されている内容は、現時点のものか。来年度から制度改正等で変更となる部分については修正していただきたい。

<事務局：竹田こども政策課長>

御指摘のとおり、事業の概要は現状を記載している。現在庁内において作業部会という形で、各部課で修正をしているため、原案から修正されたものとなる。国からも追加の指針が出ているため、追加が必要な事業については、順次追加していきたい。

<清水委員>

親になる前に小さな子どもと交流が持てず、親になって初めて子どもの育て方を学ぶ子どもがいる。【(1-2)②小学生・中学生・高校生のキャリア教育の推進】のキャリア教育の部分で、企業だけでなく、小さい子どもとの交流も是非取り組んでいただきたい。

<事務局：竹田こども政策課長>

中・高校生のうちから取り組めるよう、関係部課と相談し、盛り込む点については検討したい。

<稲垣会長>

キャリアデザインは、どう仕事を選ぶかのみを考えがちだが、自分の人生設計をどうつくるのかという意味があると思う。子どもを育みながら自分の人生観をどう持つか、清水委員の御指摘の点もキャリア教育に入ると思う。

現在は結婚がライフスタイルの1つとなりつつあり、結婚を選択しない人生観が若い人の中に現れている。子どもたちと触れ合う体験を持ったうえでの選択ならいいが、体験が希薄なことによる不安感があるとすれば、結婚・子育てを若いうちに選択肢として持てるよう、キャリア教育がもっと豊かになるとよい。

また、表現の問題だが、子育て支援を計画に盛り込んでいるが、事業の概要が子育て支援の視点からの表現になっている。表記が不明瞭のため子育て支援がみえない。子どもの意見に応え、習志野市として、子どもたちに子育て支援の方向性がわかるような事業名・表現にしていきたい。

<藤本委員>

各事業の担当課について、幼稚園・保育所とあるのは公立のことか。事業の中には、私立幼稚園の各園でも取り組んでいるものはあるが、事業について市と協議をした記憶はない。習志野市全部の幼稚園・保育所なのか、公立の幼稚園・保育所での事業等を載せているのか。

<事務局：竹田こども政策課長>

記載しているのは、公立のことである。今後の子育て・子育てを考える際には、将来的には公私分け隔てなく取り組んでいきたいため、改めて協議したい。

<早山委員>

文言の精査が必要。例えば、「障害」と「障がい」の表記の統一など、文言の精査が必要かと思う。また、表紙のナラシド♪のように、他のページにもイラストがあるとよい。

<事務局：竹田こども政策課長>

精査して、修正させていただきたい。本文中のデザインについても修正させていただく予定で、見やすいものにしたい。

<稲垣会長>

全体として、見やすさ、わかりやすさを考えて精査させていただきたい。事業の概要にある「母子及び寡婦福祉法」は「母子及び父子並びに寡婦福祉法」に変更となっている。法律名の記載も

正確を期していただきたい。

(第6章)

<稲垣会長>

【[1]計画の推進体制(3)計画の進捗・管理】では、子ども・子育て会議が中心となり、毎年施策・事業の実施状況を点検評価し、事業評価等継続的な取り組みを推進しているが、この表現でよいか。

<事務局：竹田こども政策課長>

来年度以降の子ども・子育て会議では、この事業計画の実施状況について御意見や、改善策を御提案いただき、進行管理を中心をお願いしたいと考えている。

<稲垣会長>

実施状況の点検・評価等を子ども・子育て会議で検討するには会議時間が限られることもあり、委員が効率的に作業できるよう、事務局においては正確にまとめをしていただきたい。

<栢委員>

【[1]計画の推進体制(1)計画の周知】で、ホームページ等は、見る側が主体的に動かないと見ることができないため、計画の趣旨等の周知方法は難しいと感じた。

【[2]家庭・地域・事業者の役割(2)地域の役割】に地域の自治組織とあるが、自治組織に参加している人の内、子育て世代が軒並み少なくなっていると感じる。その中で地域のネットワークづくりをどうしていくのか。最終的には、地域の子育て世代同士が繋がらないと、将来には繋がらない。市がどうしていきたいか、企画を練っていく必要がある。

<事務局：竹田こども政策課長>

隣近所との関係の希薄化は今後ますます傾向は強くなりかねない。十分に情報発信・情報提供をしていきたい。調査からはまちづくり会議の認知度が低いという課題もあり、町会自治会を通し、より地域との関係づくりを進めていかななくてはならない。

<栢委員>

習志野市に任せるだけではなく、私たち自身も考えて一緒にやっていかなければならない。

<稲垣会長>

根幹の連携は取らなければならない。子育て・子育に主眼をおいた、複数のネットワークが必要である。関係機関とのネットワークは再考が必要である。制度を強化するネットワークと柔軟なネットワーク等があることでSOSを見過ごさないようにしなければならない。連携・協働・市民参加・当事者参加と、そこに世代間連携が必要となってくる。

<早山委員>

保護者のPTA活動が難しくなっている。記載できるかどうかかわからないが、地域・家庭・事業者の3点の役割を果たすには学校や幼稚園、保育所等が地域のコミュニティの中心となる必要があると思う。以前は子ども会があったが、子ども会がない地域もある。子どもが集まるところが地域のコミュニティとなる仕掛けをつくっていく必要がある。

<事務局：竹田こども政策課長>

御指摘のとおり、地域のコミュニティ社会をつくっていくためには、学校を核にしていかななくてはならない。3つの中にも含めるか、別に記載するかは検討するが、記載する方向で考えたい。

<稲垣会長>

地域福祉の資源の整備が日本は遅れている。つながりがあり、相互性があるエリアのことをコミュニティという。コミュニティの中にある資源をどう名称化するか。日本では、学校がコミュニティのコアになる性質をもっているとの指摘かと思う。それを習志野市の現状として、学校が果たしている役割について考える必要がある。ただ、施策展開していくときに、先生の負担とならないよう学校との共存を考えていかなければならない。

計画策定の今後のスケジュールはどうなっているのか。

<事務局>

11月にパブリックコメントを行いたいと考えているため、10月の次回会議で計画案のとりまとめを考えている。

<栢委員>

子どもの参画活動が計画のどこかに盛り込まれるとよい。子どもたちで何かを実現するために、祭り等があると思うが、子どもたちが意見を言い実現していくことが、大切な活動であると思う。

<稲垣会長>

例えば、子ども議会の開催や、学校の授業の中に地域のプランニングを行ったり、大学と連携を取り大学生と小中高生が一緒になってお祭りをやるなども考えられる。御指摘の意見は、さまざまな事業で関連してくる。

<早山委員>

子どもたち自身で企画して大きなイベントができると素晴らしい。習志野市の小中学生で組織される「キラット・ジュニア防犯隊」では、自転車のロックの確認の活動等も行っている。大学生との連携事業も一部で行っている。

<稲垣会長>

実現できるかはわからないが、子ども議会の代表が、習志野市議会の議場を実際に体験し、その体験を学校に戻ってフィードバックするなど、子どもたちに本物体験をさせていきたい。それは自己肯定感につながる。先駆的なものに学びながら考えていくことが大切である。我々大人がどうアプローチしていくかが重要である。

### 3. その他

- (1) 「放課後子ども総合プラン」における市町村行動計画を「習志野市子ども・子育て支援事業計画」に記載することについて

<事務局：竹田こども政策課長>

○事務局より、資料2に基づいて説明。

<佐々木委員>

習志野市として、放課後児童クラブの方向性を変えるのか、変えないのか、次回教えていただきたい。

- (2) 次回以降の会議日程及び議題等について

○ 10/17 (金) 17:00~19:00 消防庁舎 4階会議室

(3) その他

4. 閉会

**【所属課】**

こども政策課

電話番号：047-451-1151（内線 442、433）

FAX 番号：047-453-5512